

女性目線 地域の魅力調査

若者の定着支援 県事業スタート

八戸

県三八地域県民局は、女性目線から地域の産業や暮らしの魅力を検査し、情報を発信・共有していく事業「38リアルスタイルプロジェクト」をスタートさせた。本年度から取り組んでいる「就域」モデル構築の環境で、人材の定着と地域振興につなげることを目指す。

「就域」は、学校卒業後の就職先の選択肢として地域に着目してもらい、地域の企業や行政機関などが連携して若者の定着支援を行う試み。

八戸市のマチニワで7月29日に開いた1回目のミーティングには、八戸高校と八戸学院大学の生徒約30人と、事業に協力する約20の企業・団体が参加した。同プロジェクトを運営する「ビーエフエム」（八戸市）が事業の進め方を説明し、参加者は調査の仕方を学んだり、参加企業の概要を聞いた。

果を発表する。活動内容はビーエフエムのラジオ番組、ホームページなどで公開していく。

八戸学院大ビジネス学部4年の谷内陽香さん（21）は「地元に残りたいので地元企業のことを知りたいし、いろいろな人の話を聞き、この地域の良さを発信したい」と語った。

同県民局地域連携部の上野茂樹副参事は「生徒たち自身の目線で発見した地域の魅力を同世代や家族などに広く伝えてくれればいい。企業側も生徒との交流を通じ、自社の強みや特徴を再発見してほしい」と話していた。（近藤弘樹）